

# (公社)千葉県サッカー協会シニア委員会

## シニアリーグ活動理念について



# 千葉県シニア委員会活動理念

生涯スポーツのサッカーを通じ、仲間づくりと楽しい、豊かなサッカー人生作りを行うこと、を理念とする。

千葉県シニア委員会はサッカーの仲間作りとサッカー通じて良い環境で楽しく行う事、強いチーム、優秀な選手だけが楽しむのではなく、シニアの全チーム、参加全選手がサッカーを通じ楽しい仲間とサッカーを楽しめる環境づくりを提供し、楽しみながら、強いチーム、優秀な選手を更にUP出来る環境を提供していく事が目的です。

上記を掲げ、普段は良いグラウンドで試合を行い、年1回の表彰式では全チーム、全選手で普段はグラウンドですが、サロンフットを通じ交流を深める事。  
楽しむ事が目的です。

# シニアリーグ行動規範

1. メンバー全員が仲間です。
2. 全てシニアの活動選手で運営を行います。
3. シニア委員会のメンバーは、審判、役員（本部・他）運営全てが仲間として運営します。
4. 仲間を『尊敬し、相手を重んじる』（リスペクト）する事です！
5. 仲間とは、チームメート、対戦相手、審判、役員、運営を全ての選手が意識し開催しており、確認・認識して欲しい。
6. シニア委員会役員が運営しているのではなく、参加選手全員で運営し、人任せにしない事！

# 活動理念の重要性

- 井上・シニア委員会役員で、20年に亘るシニア委員会の活動は正しい選択と判断で千葉県シニアの活動が発展したきたことは疑問の余地がない。
- 委員長交代を機に委員による分業体制が今後のシニア委員会の繁栄のために不可欠とを感じる。
- そのためには井上自身がシニア委員会運営にあたり大切にしてきた信念を委員会の活動理念として引き継ぐ必要性があると感じております。

# 理念の必要性

- 委員長交代を前に千葉県シニア委員会の存在意義・目的を理念として委員全員で共有する必要がある。
- 委員で理念を共有し、運営のモチベーションの源とする。
- 理念が委員の判断基準になる。（理念が判断のよりどころになる）
- 理念を委員同士のコミュニケーションのベースとする。

# 理念がある組織は強い！

- 鹿島アントラーズ  
ジーコスピリット  
献身（汗を流す） 誠実（クラブに対する忠誠心） 尊重（他人へのリスペクト）
- Jリーグ  
日本サッカーの水準向上及びサッカーの普及促進  
豊かなスポーツ文化の振興及び国民の心身の健全な発達への寄与  
国際社会における交流及び親善の貢献
- 湘南ベルマーレ、 湘南スタイル  
攻撃的で、走る意欲に満ち溢れた、アグレッシブで痛快なサッカー

# さらに理念が浸透している組織は強い！

- マイクロソフト  
世界中の全ての人々とビジネスの持つ可能性を最大限に引き出すための支援をすること
- ソフトバンク  
情報革命で人々を幸せに

## 理念の浸透の重要性⇒行動規範制定

- 理念が設定されていても、組織文化に根づかなければ意味がないです。より理念を浸透し組織文化にするために具体的な行動の基準となる行動規範を設定することが必要。
- 井上委員長の信念はシニア委員会運営にしっかりと根付いている。  
委員は井上委員長の信念を  
委員会理念として引き継ぎ、理念に基づいた委員会運営を行うために行動規範を定め、  
行動規範を尊重し運営を行う必要がある。

## シニア委員会としての思い！

シニアの良い所は、重複・アンダー枠・女子選手含め、仲間意識、連帯、仲間作りです。シニア委員会発足当初は120名の会員でしたが、今年2023年度登録選手は、約1,850名強【89チーム】になりました。全てのチームがチャレンジ【全国大会優勝】を目指し意識し運営しておりますが、当たり前前の運営だけではなく、

千葉県シニアの良さを意識し、規則の柔軟性を持ち、規則遵守も大事ですが、バランス意識を持ちながら、活動しております。

仲間であるチームメート、対戦相手、審判に文句は言うが、自身が審判の時、文句を云われたらどのように感じますか？

役員の運営に対し文句は言うが役員を積極的に担うことが無いシニアもおります。

各自が担い、運営していくことが大事だと思います。

色々な意見が有りますが、シニアの活動をストップする事は簡単にできますが、如何に継続していくかが大事です。

バランス意識、感覚を持ちながら、シニアの活動がより良くなる事を意識したいと思います。東京オリンピック・パラリンピックでは色々な価値観の融合を意識し掲げている中、そうではない世界が有る事も事実です。

場所や国により価値観や基本的な考え方でさえ違う事が見られております。活動している私たち千葉県シニア委員会の組織も多様性が有り、各自の意識が近い事を祈るばかりです。

委員会競技規則は 活動規則で大事な事ですが、  
重複枠 ・アンダー枠 ・女性選手の取り込み等、チャレンジだけの当たり前ではない委員会  
リーグ規則ですが、考えて下さい。

この委員会、リーグ運営を20年間、多少の変更も有りますが 現在の規則で活動して来ま  
した。

・重複登録は存続できないチームの救済・維持のための規則では有りません。

確かにそのような事も有りました。現在、袖ヶ浦60・大木戸ぱぱ60のチーム以外、無いと  
思います。

但し、重複で本登録以外の選手、チームは有ります。

重複・アンダー枠は必須の登録では有りません。使用したくなければ使用しなくても構わない、  
規則です。

2022年度、40・50代で規則も多少変更しながらですが、現在の規則と成っております。

その事を理解しながら、22年度から重複登録に60代の基準を更新、維持し、設けていきます。

\* 今後破綻するクラブも出るかもしれません。

但し、敢えて切り捨てるのではなく、柔軟性を持たせ運営できる指導する事も、シニア委員会ではありませんか？

「早晩に破綻する事が見えている」ではなく、どの様にしたら運営継続できるのか、指導するのがシニア委員会の役目です。

龍子会も単独運営が重複選手が多く出来ませんでした。時間を掛け、甲斐あって現在は選手権に（50代・60代）出場可能となりました。

40・50代ではフレンドリー以外、問題の有るチームも有りません。

運営できない様なチームは参加を辞退していきます。そのようなチームも出そうです。

\*登録では11名の本登録選手、当日7名以上で試合成立です。上記規則が有り、重複登録する意味が無いとありますが、

リーグ戦の対戦相手が7名で成立としますが、その7名の対戦相手に楽しくサッカーの試合はできますか？

重複登録が有る事により、11名揃え、試合が出来るのでは！

シニア委員会が今後も益々の発展を祈念しております！

世代により、当たり前前の規則も大事ですが、生涯スポーツとしてサッカーを通じ、豊かなサッカー人生を送る事、考えて下さい。

チーム・選手により試合時間の少ない選手が沢山おります。どのようにその選手をこの芝グラウンドと一緒にプレーをするのでしょうか？

重複登録、女子選手が50・60代と一緒にプレーする事が問題あるのでしょうか？

40・50代、60代、65・70代で出場時間少なく、不満足な試合が続き、来なくなる事により、生涯スポーツのサッカーで、満足いくサッカー人生を送る事が出来ますか？

現在の重複で全てが満足いくことはないかもしれませんが、重複登録により、少しでも長く一緒にプレーできるようにして行きませんか？

### 最後に、『暴力の根絶』・競技規則・懲罰規則

暴力事件（喧嘩等）が起きた時、内容により、6試合他の出場停止・懲罰があります。

\*シニア委員会では、そのような選手は、シニア委員会から懲罰規則ではなく、シニア委員会として、退場してもらいます。この事は、各チーム役員 肝に銘じて下さい。

## (公社)千葉県シニア委員会・リーグの歴史

私達の千葉県シニア委員会は1998年より準備・発足しました。当初の加盟は千葉四十雀SC 1チーム120名でした。リーグとしての活動（2001年開始）7チームで開催。開始当初は40・50代の7チームでした。

千葉四十雀SC（40・50代）、四十雀クラブ東京（40・50代）、Tドリーム他、今年度2021年で20年目になり、約1600名の選手、80チームのリーグになります。

千葉県シニア委員会の前身はシニア連盟で、三井造船S.C主催の基、シニアリーグを開催していました。

千葉県協会会長でもあった、穂高氏（習志野高、法政大学、三井造船サッカー部出身（三造興産社長））の下、開催されておりました。

当初は三井造船市原ふ頭内、サッカー・野球場で開催。その後、辰巳台グラウンド使用。

（公社）千葉県サッカー協会シニア委員会はシニア連盟で、その成り立ちは1972年関東四十雀サッカー大会がシニア大会とし、9月15日敬老の日で開催されました。

この関東四十雀大会は四十雀クラブ東京の発起により、第1回大会東大御殿下グラウンドで開催されたのが日本のシニアサッカー先駆けと云われております。

東京、神奈川、山梨、茨城、千葉県の四十雀チームで開始され、千葉県も1972年第1回大会から参加しました。それ以前1970年度辺りから交流会は有ったようです。

千葉県の活動は、田中章先生（現葛城クラブ田中進氏の御父上）の掛け声で、千葉師範（千葉大学学芸部）OB等に声を掛けられたようです。浪越先生、畑山先生、鍋島先生、浅野先生等、歴代の大先輩です。

年1回（9月15日敬老の日）四十雀大会とし各都県持ち回りで開催されておりました。

四十雀クラブ東京には日本サッカー協会の長沼健前会長（メキシコオリンピック3位監督）、岡野俊一郎氏（前会長・IOC委員、メキシコオリンピック同コーチ）

歴代の代表的な選手も所属しておりました。

千葉県は先の田中章先生により声が掛けられ、当初はユニフォーム（色決定せず）も無く、三々五々集合し、近くのスポーツ屋でスパイク、パンツ、ストッキングを購入、道具を準備したと、佐藤操さん（千葉四十雀35周年記念誌、ひな鳥の頃）記されておりました。

そして、1993年千葉県スポレク祭（40歳以上国体同様大会、現在のねんりんピック：60歳以上大会）があり、この頃は千葉県シニアサッカー連盟とした組織に成っておりました。

1997年よりJFAシニア種登録必須によりシニア種として登録開始、シニア連盟からシニア委員会への準備を始める。

当初、県協会所属しておりました鍋島先生の発起により、浅野、林學、秋田各先生、高橋雄次、堀井、鹿島、片伯部、黒木、高西、村野、各氏(敬称略) 井上等で話し合いがなされました。

連盟を一度解散、シニア種とし千葉県サッカー協会に2004年から属し、現在のシニア委員会になりました。

初代委員長、高橋雄次氏（日本リーグ古河電工所属）、副委員長堀井国男氏（日本リーグ日立本社）両名、秋田商業同期卒業し、日本リーグに参戦されました。

8年間委員長、副委員長として活動を指揮して頂きました。

2代目手塚千俊氏、3代目の井上、現在4代目高田敏委員長継続されていきます。

井上は鍋島先生ご指導の元、シニア委員会発足から、事務局長とし準備、運営してきました。

この様な経緯で現在に至っております。

簡単ですが、このような状況で現在のシニア委員会が運営されております。

今迄、歴史等話をしたことは有りませんが、今回は歴史を継承する為、記しておきます。

※今後のプログラムへ掲載していきたいと考えます！

2021年シニア委員長

井上 龍彦

1981年 第10回 関東四十雀大会 集合写真



参加メンバー集合写真

鍋島先生、加藤先生、浪越先生、佐藤操先生、林學先生、高柳氏、浅野先生、畑山先生、穂高氏、田中彰先生、

他、各選手

そうそうたるメンバー40代前半時代です。